

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0290100213		
法人名	株式会社ベストケア		
事業所名	青森第1グループホーム		
所在地	青森県青森市青柳1丁目16番5-1号		
自己評価作成日	平成28年6月28日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	平成28年7月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入居者様が、病状の重度化や加齢により衰弱し、人生の終末期の状態になっても、ご本人が望む場所で、ご本人が望む生活を維持し、最後まで暮していくことができるように、医療機関及びご家族と協力して対応しています。</p> <p>また、内・外部研修の機会を多く持ち、職員のスキルアップに繋げています。</p> <p>介護予防セミナーや認知症カフェを開催し、地域の方との交流や、入居者様が社会的つながりによる他者との交流が図れる取り組みをしています。</p> <p>建物は陸奥湾を一望できる位置にあり、青森の祭り等を感じ取れる環境であります。(花火大会等)</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ホームは青森湾近くに立地し、開放的なリビング兼食堂からは、釣り人の風景や、毎年、ねぶたの海上運行、花火等を居ながらにして楽しめる場所となっている。</p> <p>「家庭的な環境のもとで地域に密着し、入居者様がその役割を持って日常生活を営むことができるよう、心をこめたサービスを提供していきます」というホーム独自の理念の他に、「挨拶、敬意、自己研鑽、思いやりと感謝、プロ意識」という5つの基本方針を職員一人ひとりが胸に込め、日々のケアに当たっている。</p> <p>また、医療機関が運営主体であり、重度化や終末期への対応を行っており、ホームへの往診や、緊急時に医師や看護師と連携して対応できる体制となっている。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員が理念を共有し、毎日の生活の中で反映させていけるよう意識しながら、実践につなげている他、理念を基に内部研修を行っている。	ホーム独自の理念を廊下やリビングに掲示している他、職員が折に触れて意識できるよう、理念と基本方針が印字されたネームカードも携帯している。また、毎月の会議でも理念を共有し、利用者が住み慣れた地域の中、家庭的な環境の下で暮らし続けることができるよう、日々のケアに当たっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	回覧板等を利用して情報収集している他、ホームのブログ、認知症カフェや介護予防セミナー等を通して情報を発信し、交流を図っている。	ブログでホームの行事や生活の様子等の情報を発信している他、町内の回覧板を利用して、介護予防セミナーや認知症カフェ開催のお知らせを行っている。また、ボランティアの訪問を受けている他、町内のごみ拾いや毎年のお祭りへの参加、小学校の運動会や学芸会等への招待等を通じて、地域住民との交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習生の受け入れや、認知症カフェや介護予防セミナー等を開催し、地域の方々と交流を図っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を通して地域交流の報告、勉強会を行い、意見を取り入れて実践に繋げ、サービス向上に活かしている。	運営推進会議は2ヶ月1回開催され、利用者や家族、町内会長、地域包括支援センター職員、地域住民の参加を得ている。会議では、ホームや利用者の近況、行事予定、介護予防セミナーや認知症カフェ開催の提案、家族会設立の件等を積極的に話し合い、メンバーの意見を聞いて、サービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	自己評価、外部評価の結果について報告していく他、運営推進会議の報告等もしていき、必要に応じて、職員が市役所に出向き、相談・連携を図っている。	運営推進会議に地域包括支援センター職員が参加している他、市には毎回、会議内容を報告している。また、ホーム開催のセミナーや認知症カフェ等を市の広報に掲載していただくように依頼したり、必要に応じて各種制度の相談を行い、協力を得るようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを作成し、ミーティングにて身体拘束についての研修を実施して、予防対策について実践している。やむを得ず身体拘束が必要な際にはご家族へ説明し、同意を得て、記録に残す体制としている。	身体拘束の内容やその弊害について内部研修を行い、全職員で理解を深めている他、ミーティングでも常に話し合っている。また、身体拘束のマニュアルを整備し、マニュアルに沿って、やむを得ず行う身体拘束対象者やその家族への対応がなされている他、利用者の無断外出に対しは、近隣の警察やコンビニへ協力を依頼している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の防止について、研修を通して防止に努めている。また、職員の心身の健康状態を把握することで、虐待の未然防止にも努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部、外部研修を計画し、研修に参加して、理解を深めるよう取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	一つ一つの説明に対して納得していただけるよう、丁寧に説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族とのコミュニケーションを図りやすい環境を整え、事業所内に苦情相談窓口、意見投函箱を設置して、ご家族が意見を申し出しやすくしている。また、家族会や面会時、電話連絡の際等にも意見を聞いている。	入居時に、利用者及び家族へ、重要事項説明書で苦情相談受付窓口を説明している他、事務所前にも掲示している。また、意見投函箱を設置している他、運営推進会議の場や家族面会時、電話でも意見や要望を聞き、出された意見・要望に対して、早急に話し合い、対応する体制である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員間のユニットミーティングを通して意見や提案を求めたり、個人面談等を行い、より良い環境づくりができるよう心がけている。	毎日のユニットミーティングや毎月の会議で、職員から出された意見や要望を検討している他、管理者は年2回、職員と個人面談を行い、意見や要望を把握し、相談にのっている。また、相談等があれば、その都度、職員の話聞く機会も設けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ミーティングや面談を通して意見や提案を求め、より良い環境づくりができるよう心がけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所独自の年間研修計画を作成し、研修会等には全職員が参加できるよう、体制づくりをしている。研修終了後は伝達研修を行い、全職員に周知している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	行事参加、見学研修等を通して意見交換し、サービスの質を向上させる取り組みをしている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用希望者やご家族と面談をし、直接話をして、ご本人様の意向を聞き取り、安心して暮せるよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	直接ご家族とよく話し合いをし、情報を提供していただき、一番望んでいる事を提示できるような関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、聞き取りによる適切な状況判断により、必要な支援サービスが受けられるよう、関係機関との連携を図っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様を人生の先輩、ご家族の一員として、相互の信頼関係を築けるよう努力しながら、支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との連携を密にして、入居者様の情報提供を通して、意見等の交換ができる環境、何でも言い合える関係づくりをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人様の要望を基に、馴染みの人や場所等に足を運んでもらえるよう、声がけをして、ご家族の協力の下、実践している。	入居時の利用者及び家族へのアセスメントや日々のケアの中で、馴染みの人や場所を確認し、年賀状や電話の取り次ぎ、希望する場所への外出行事の計画等を行っている。また、時に家族の協力を得ながら、利用者の馴染みの関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様一人ひとりを理解するように努め、その人に合ったコミュニケーションを図り、その人らしい環境、雰囲気づくりをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も電話連絡や相談に対応できるようにしている。また、退去先の関係者に対し、入居者様の状況やこれまでのケア等を伝えている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様とのコミュニケーションを密にし、思いや希望等を把握できるように対応している。また、全職員が入居者様の視点に立って意向の把握に取り組み、ご家族からの情報収集も行っている。	入居時のアセスメントや利用者との1対1のケアの中で、思いや意向を確認している。意向の把握が困難な場合は、面会時等に家族から聞き取りを行い、把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や関係機関からの情報を基に、ご本人様と対話しながら確認している。また、全職員にプライバシー保護の周知徹底を図っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人らしい行動を全職員が把握し、心身の状態観察をしながら、変化に応じて適切な支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	その人がより良く生活していけるように、コミュニケーションで知り得た小さな情報や家族の意見・要望の他、毎月の会議において、全職員で、実施期間に関わらず、身体の状態の変化についても具体的に話し合い、ケアプランに反映させている。	日頃から、利用者や家族の意向、要望、利用者の状態等の情報を職員間で共有し、短期目標期間を3ヶ月として、利用者本位の介護計画を作成している。また、病気等で身体状態に大きな変化があった場合等は、その都度、介護計画の内容を見直し、現状に即した計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その人のケアプランや個別プログラムに合わせて、その人の状態を誰が見てもすぐわかるような様式になっており、日々の暮らしや計画書等の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携体制をとり、安心して暮せるように努めている他、通院や外出支援をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域や町会と行事等を通して交流を図り、資源活用をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様やご家族が希望する往診や医療機関の受診等ができるようにしている。	入居時にこれまでの受療状況を把握し、希望する医療機関を受診できるように支援している他、利用者のほとんどが母体医療機関によるホームへの往診を利用している。また、受診は原則家族対応であるが、困難な場合にはホームで対応し、受診結果を電話で家族へ報告している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタルチェックを基に状態観察し、医療機関との連携体制を密にして、変化があった時には全職員が対応できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院者やそのご家族、関係者と定期的、また、状態に応じて随時話し合いをし、早期退院に向けて、関係者との情報交換を密にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者様やご家族の意向を踏まえた上で、医療機関やご家族との連携を図りながら支援していく体制をとっている。	ホームの対応として、「重度化対応・終末期ケア対応指針」を利用者及び家族へ説明し、理解を得るように取り組んでいる。また、看取りの段階に入った場合は、再度、利用者及び家族から意向を確認し、医療機関と連携を図りながら支援していく体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員でミーティング時に各マニュアルを確認したり、防災訓練や救命講習を行いながら、急変時や事故発生時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	町会長等地域の方々や運営推進会議のメンバー及びご家族と、年2回、日中、夜間を想定した避難訓練を実施している。	年2回、隣接する有料老人ホームと合同で、運営推進会議メンバーや地域住民の参加も得て、日中・夜間を想定した避難訓練を行っている。2階非常口外には非常階段の他、脱出用の滑り台が整備されている。また、災害発生時に備え、携帯コンロやスポーツドリンク、缶詰、カップラーメン等の非常食が備蓄されている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないよう、日々の振り返りや勉強会を通して実施し、対応している。	プライバシー保護マニュアルを整備しており、職員は利用者に対して、常に年長者として敬いながら、声かけ等に注意し、日々のケアを行っている。また、不適切な言葉遣い等が見られた場合は、管理者が注意したり、ミーティングで振り返りを行い、より良いケアに向けて改善している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の希望や思いを聞きながら、発言、意思表示できる環境を提供している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりがその人らしく自由に過ごせる時間帯等を考慮し、快適な生活が送れるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみをして職員やご家族と外出される他、馴染みの美容院に定期的にカットをお願いしている。化粧品等も購入し、その人らしい身だしなみを継続できるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	事前に嗜好を把握し、その人に合った食事形態で提供をしており、食事を楽しめるよう、行事食等も取り入れている。	食材と献立は業者に委託し、内容やカロリー等に配慮されたものとなっており、利用者の好みや禁忌食を業者に報告して代替食を提供する等、柔軟に調整している。また、利用者の能力に合わせ、食器拭きや後片付け等を職員と共に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせて食事・水分を提供し、申し送りや記録を通して、全職員で情報を共有している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時・就寝時・毎食後、声かけや見守り、一部介助をして、口腔ケアを実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を用いて、個々のパターンに合わせた声かけ、誘導を行い、日々の状態を観察し、排泄用品の変更を、入居者様・ご家族の意向を確認しながら支援している。	排泄チェック表に個々の排泄状況を記録して、排泄パターンに応じて事前誘導を行い、できるだけトイレで排泄できるように支援している他、便秘解消に向けた体操も行っている。また、尿意や便意を聞く時は、周りに配慮した声かけを行い、羞恥心やプライバシーに配慮している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	その人に合った軽体操を実践している。また、水分補給の徹底の他、薬になるべく頼らないよう、乳製品等を摂り、自然排泄を促す支援をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	入居者様一人ひとりに合わせた入浴を提供している。また、希望があれば、いつでも入浴可能である。羞恥心に配慮して、同性介助により、1対1での入浴を基本としている。	週2回の入浴を基本としているが、利用者の好みに応じて入浴回数を増やしたり、夕方の入浴もできる体制としている。また、同性介助と1対1対応を基本としているが、車椅子利用者に対しては、職員2名でリフト浴を使用し、対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣に合わせた休息をいただいている。ご本人様の体力を考慮し、適度な運動後には、柔軟な対応にて、休息をとるように支援している。また、不眠時等には対話や一緒に行動する等し、入眠を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員に服薬の確認と薬の内容の把握をもらい、主治医や調剤薬局との連携等を図り、個々に合った飲みやすい形状で入居者様に提供している。誤薬や飲み忘れが無いよう、職員間での確認と、ご本人様の前で名前等の読み上げを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の生活歴や力量を把握し、軽体操やレクリエーション、アクティビティーへの参加を促し、それぞれに楽しみを持ってもらえるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩等の日常的な外出の機会を設けている他、季節毎の外出も行っている。また、その日の身体状況に合った支援をしている。	利用者の希望を考慮して年間の外出行事を計画している他、日頃から近所のスーパーへの買い物や神社参り、ホテルへケーキを食べに行ったり、パン屋等へも出かけている。また、利用者の身体状況に合わせ、車いす専用車を使用する等の対応も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出の際、ご本人様の嗜好品を購入できる機会を設けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望により、ご家族への電話等の対応を、すぐにできる環境となっている。また、ご家族宛に、年賀状をご本人様と職員と一緒に作成し、送付している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング等に手作りの季節を感じる作品を飾っている他、温度・湿度を確認し、居心地の良い温度調節を心がけている。	ホームは床暖房とエアコンが完備されており、適切な温度が保たれている。廊下は車椅子2台がすれ違うのに十分な広さがあり、リビングの開放的な窓からは海を望めることができ、木目調のテーブルでは利用者がパズル等で遊んでいる。また、利用者が見やすい位置にテレビが配置されており、音量も適切である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの中で一人で過ごせる空間を作ったり、テーブル等の配置換えをして、会話をしやすいよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様の馴染みのある家具や写真等を持ち込んでもらい、居心地よく生活できるように取り組んでいる。	利用者が入居前から使用している椅子やテレビの持ち込みがあり、家族の写真等を飾っている。また、持ち込みが少ない利用者に対しては、自作の書を飾る等、工夫を凝らした居室づくりを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室に大きな居室番号やドアノブに名札等を付け、声がけや見守りをし、安心して生活できるように心がけている。また、入居者様の身体状況に応じて、手すりを増設している。		